職業実践専門課程等の基本情報について

+1 桐っ-1。		設直	認可年月	1日 村	交長名			所在地			
札幌スポーツ&メデ	ディカル専		16年7月		篆 寿樹		060-0061 札幌市中央区南1条	元8 丁目11-1			
門学校							011-233-3555				
設置者名			認可年月		表者名	Ŧ	113-0033	所在地			
学校法人三幸!	学園	昭和6	60年3月	8日 鳥	居 敏		東京都文京区本郷三 03-3814-6151	丁目23番16号			
分野	į	認定課程名		認定学科	名		計士認定年度	高度専門士認定	E年度 職	業実践専	門課程認定年度
文化・教養	文化	之教養専門課	.程	スポーツ&アクラ	ティビティ科	平成	27(2015)年度	-		平成27	7(2015)年度
学科の目的				をミッションとし、学校 担う人材を養成するこ			ス業界に従事しようとす	する者に必要な実践的]かつ専門的な	知識、技能	を教授することに
学科の特徴(主な 教育内容、取得可 能な資格 等)	取得可能な	な資格・検定:	健康運	動実践指導者・フィット	・ネスクラブマ	ネジメント技能	能検定3級・JATI認定ト	レーニング指導者・Pト	II Pilates Basic	exercise i	nstructor
修業年限	昼夜	全課程の修		な総授業時数又は総 立数	講	義	演習	実習	実験		実技
2	昼間	※単位時間、単 かに記入	位いずれ	単位時間		単位時間	単位時間	単位時間		立時間	単位時間
年				62 単位		2 単位	50 単位	19 単位	0 単位	ά	44 単位
生徒総定員	生徒到	€員(A)	留学生	数 (生徒実員の内数)(B)	留学生害	引合(B/A)	中退率				
76 人	44	Д		1 人	2	%	2 %				
	■卒業者		:	26	1	Ż.					
	■就職希	望者数(D) 数(E)	:	24 21							
	■地元就	職者数(F)		19		X					
	■就職率 ■就職者	<u>(E/D)</u> に占める地元	就職者の			%					
				90		%					
	■卒業者	こ占める就職	者の割合	(E/C) 81		%					
就職等の状況	■進学者			1		Ž					
30,31, 17 0000	■その他										
	/A T-	o Are	: nh: sh: *W: sh	fに関する令和 7年5	日1日味どの	Ada dan V					
	(令和	6年 職先、業界等		に関する市和「午5	月1日时息の	1月 年以					
	(令和6年度		r								
			ーソナル	トレーニングジム、材	幾能訓練施設	等					
		言で /工 4株 日日 ケケー	h: # -	***			4111				
第三者による		評価機関等が 、例えば以下に					無				
学校評価		55 /m: FO 64-					評価	m結果を掲載した			
	1	評価団体: -			受審年月:	-	+-	A CONTRACT			
当該学科の							1/1-	-ムページURL			
ホームページ			,				W	-AN-VURL			
URL	https://ww	vw.sanko.ac.jp.	/sappord	-sports/course/spor	rts/		W-	-AV-NOKT			
				-sports/course/spor	rts/		W-	-A^->U R L			
		立時間による第		-sports/course/spoi	rts/		47-	-AA-VURL	巤化	位時間	
		立時間による乳総授業時数	算定)			运業時 数	41-	-AN-YURL		立時間	
		立時間による第 総授業時数	算定) うち企業等	等と連携した実験・ ┋	実習・実技の	授業時数	42-	-AN-YURL	単位	位時間	
		立時間による第 総授業時数 う	算定) うち企業等 うち企業等	等と連携した実験・9 等と連携した演習の打	実習・実技の	受業時数	47-	-AA-VURL	単位	位時間	
		立時間による第 総授業時数 う	算定) うち企業等	等と連携した実験・3 等と連携した演習の打 受業時数	実習・実技の 受業時数			-AA-VURL	単(単(単(位時間位時間	
		立時間による第 総授業時数 う	算定) うち企業等 うち企業等	等と連携した実験・3 年と連携した演習の打 受業時数 うち企業等と連携し	実習・実技の名 受業時数 た必修の実履	倹・実習・実	技の授業時数	-AA-VURL	単化 単化 単化	位時間 位時間 位時間	
URL		立時間による3 総授業時数 う う	算定) うち企業等 うち企業等 うち企業等	等と連携した実験・5 等と連携した演習の計 受業時数 うち企業等と連携し うち企業等と連携し	実習・実技の対 受業時数 た必修の実駅	検・実習・実 習の授業時数	技の授業時数	-AA-VURL	単化 単化 単化 単化	立時間 立時間 立時間 立時間	
URL 企業等と連携した		立時間による3 総授業時数 う う	算定) うち企業等 うち企業等 うち企業等	等と連携した実験・3 年と連携した演習の打 受業時数 うち企業等と連携し	実習・実技の対 受業時数 た必修の実駅	検・実習・実 習の授業時数	技の授業時数	-AA-VURL	単化 単化 単化 単化	位時間 位時間 位時間	
・ URL ・企業等と連携した実習等の実施状況 ・(A、Bいずれか	(A:単位	立時間による3 総授業時数 ううう	算定) うち企業等 うち企業等 うち必修打	等と連携した実験・5 等と連携した演習の計 受業時数 うち企業等と連携し うち企業等と連携し	実習・実技の対 受業時数 た必修の実駅	検・実習・実 習の授業時数	技の授業時数	-AA-VURL	単化 単化 単化 単化	立時間 立時間 立時間 立時間	
URL 企業等と連携した 実習等と実施状況	(A:単位	立時間による3 総授業時数 ううう	算定) うち企業等 うち企業等 うち必修打	等と連携した実験・5 等と連携した演習の計 受業時数 うち企業等と連携し うち企業等と連携し	実習・実技の対 受業時数 た必修の実駅 た必修の演習	検・実習・実 習の授業時数	技の授業時数	-AA-VURL	单 f 单 f 单 f 单 f	立時間 立時間 立時間 立時間 立時間	
・ URL ・企業等と連携した実習等の実施状況 ・(A、Bいずれか	(A:単位	立時間による3 総授業時数 うううう	算定) うち企業等 うち企業等 うち必修打 (うち企業	等と連携した実験・3 等と連携した演習の社 受業時数 うち企業等と連携し うち企業等と連携し うち企業等と連携したイング	実習・実技の対 受業時数 た必修の実態 た必修の演習 オーンシップの	検・実習・実 習の授業時数 の授業時数)	技の授業時数	-AA-VURL	単在 単在 単在 単在 単在 単在	立時間 立時間 立時間 立時間 立時間	
・ URL ・企業等と連携した実習等の実施状況 ・(A、Bいずれか	(A:単位	立時間による3 総授業時数 うううう	算定) うち企業等 うち必修打 (うち企動 定)	等と連携した実験・3 等と連携した演習の計 受業時数 うち企業等と連携し うち企業等と連携したイング 等と連携したイング	実習・実技の対 受業時数 た必修の実態 た必修の演習 マーンシップの	検・実習・実 習の授業時数 の授業時数)	技の授業時数	-AA-VURL	単化 単化 単化 単化 単化 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	立時間 立時間 立時間 立時間 立時間 立時間	
・ URL ・企業等と連携した実習等の実施状況 ・(A、Bいずれか	(A:単位	立時間による3 総授業時数 うううう (位数による第5 総単位数	算定) iち企業等 iち企業等 iち必修打 (うち企ま iち企業等 iち企業等	等と連携した実験・3 等と連携した演習の計 受業時数 うち企業等と連携し うち企業等と連携したイング 等と連携した大実験・3 等と連携した実験・3 等と連携した演習の記	実習・実技の対 受業時数 た必修の実態 た必修の演習 マーンシップの	検・実習・実 習の授業時数 の授業時数)	技の授業時数	-AA-VURL	単化 単化 単化 単化 単化 16 単化 16 単化	立時間 立時間 立時間 立時間 立時間 位 立 位 位 位 位 位 位 位 時間 位 位 位 は 時間 位 位 は 時間 位 位 は は 位 は は 位 は し 位 は し 位 は し に し は し に に し に し に し に に に に に に に に に に に に に	
・ URL ・企業等と連携した実習等の実施状況 ・(A、Bいずれか	(A:単位	立時間による3 総授業時数 うううう (位数による第5 総単位数	算定) うち企業等 うち必修打 (うち企動 定)	等と連携した実験・3 等と連携した演習の計 受業時数 うち企業等と連携し うち企業等と連携したイング 等と連携した大変験・3 等と連携した演習の計	実習・実技の対 受業時数 た必修の実態 た必修の演習 マーンシップの 実際では、 を選挙を表する。 を を を を を を を を を を を を を を を を を を を	象・実習・実 習の授業時数) の授業時数) 単位数	技の授業時数	-AA-VURL	単位 単位 単位 単位 単位 16 単位 12 単位	立時間 立時間 立時間 立時間 立時間 位 立 位 位 位 位 位 位 位 時間 位 位 位 時間 位 位 は 時間 位 位 時間 位 位 は 位 位 位 は 位 位 位 位 位 位 位 位 位 位 位 位 位	
・ URL ・企業等と連携した実習等の実施状況 ・(A、Bいずれか	(A:単位	立時間による3 総授業時数 うううう (位数による第5 総単位数	算定) iち企業等 iち企業等 iち必修打 (うち企ま iち企業等 iち企業等	等と連携した実験・3 等と連携した演習の計 受業時数 うち企業等と連携し うち企業等と連携したイング 等と連携した実験・3 等と連携した演習の記 単位数 うち企業等と連携し	実習・実技の対 受業時数 た必修の実態 た必修の演習 マーンシップ(実習・実技の) 単位数	象・実習・実 習の授業時数) の授業時数) 単位数 乗・実習・実	技の授業時数	-AA-VURL	単位 単位 単位 単位 年位 7 単位 16 単位 12 単位	立時間 立時間 立時間 回時間 回時間 回時間 回時間 回時間 回位時間 回位時間 回位時間 回位	
・ URL ・企業等と連携した実習等の実施状況 ・(A、Bいずれか	(A:単位	立時間による3 総授業時数 うううう (位数による第5 総単位数	算定) うち企業等 うち必修打 (うち企業 定) うち企業等 うち企業等 うち必修加	等と連携した実験・3 等と連携した演習の計 受業時数 うち企業等と連携し うち企業等と連携したイング 等と連携した実験・3 等と連携した演習の副 単位数 うち企業等と連携し うち企業等と連携し うち企業等と連携し	実習・実技の対 受業時数 た必修の実態 た必修の演習 マーンシップの 実習・実技の 単位数 た必修の実態 た必修の実態	象・実習・実 習の授業時数) の授業時数) 単位数 像・実習・実 習の単位数	技の授業時数	-AA-VURL	単位 単位 単位 単位 年位 7 単位 16 単位 12 単位 1 単位 1 4 単位	立時間 立時間 立時間 回時間 回時間 回時間 回時間 回時間 回時間 回位 回時間 回位 回时间 回位 回位 回位 回位 位位 位位 位位 位位 位位 位位	
・ URL ・企業等と連携した実習等の実施状況 ・(A、Bいずれか	(A:単位	立時間による3 総授業時数 うううう (位数による第5 総単位数	算定) うち企業等 うち必修打 (うち企業 定) うち企業等 うち企業等 うち必修加	等と連携した実験・3 等と連携した演習の計 受業時数 うち企業等と連携し うち企業等と連携したイング 等と連携した実験・3 等と連携した演習の記 単位数 うち企業等と連携し	実習・実技の対 受業時数 た必修の実態 た必修の演習 マーンシップの 実習・実技の 単位数 た必修の実態 た必修の実態	象・実習・実 習の授業時数) の授業時数) 単位数 像・実習・実 習の単位数	技の授業時数		単位 単位 単位 単位 年位 7 単位 16 単位 12 単位	立時間 立時間 立時間 回時間 回時間 回時間 回時間 回時間 回時間 回位 回時間 回位 回时间 回位 回位 回位 回位 位位 位位 位位 位位 位位 位位	
・ URL ・企業等と連携した実習等の実施状況 ・(A、Bいずれか	(A:単位	立時間による3 総授業時数 うううう (位数による第5 総単位数	算定) うち企業等 うち必修打 (うち企業 定) うち企業等 うち企業等 うち必修加	等と連携した実験・3 等と連携した演習の計 受業時数 うち企業等と連携し うち企業等と連携したイング 等と連携した実験・3 等と連携した演習の副 単位数 うち企業等と連携し うち企業等と連携し うち企業等と連携し	実習・実技の対 受業時数 た必修の実態 た必修の演習 マーンシップの 実習・実技の 単位数 た必修の実態 た必修の実態	象・実習・実 習の授業時数) の授業時数) 単位数 像・実習・実 習の単位数	技の授業時数		単位 単位 単位 単位 年位 7 単位 16 単位 12 単位 1 単位 1 4 単位	立時間 立時間 立時間 回時間 回時間 回時間 回時間 回時間 回時間 回位 回時間 回位 回时间 回位 回位 回位 回位 位位 位位 位位 位位 位位 位位	
・ URL ・企業等と連携した実習等の実施状況 ・(A、Bいずれか	(A:単位	立時間による3 総授業時数 う う う う う う う う う う う う う う う う う う う	算定) ち企業等 ちち必修 (うち企業 を ちち必修 ちち必修 (うち企業 もちを まちる必修 を またる また また また また また また また また また また また また また	等と連携した実験・3 等と連携した演習の計 受業時数 うち企業等と連携し うち企業等と連携したイング 等と連携した演習の計 単位数 うち企業等と連携し うち企業等と連携し うち企業等と連携し	実習・実技の記 受業時数 た必修の実易 オーンシップの 第一ンシップの は自位数 た必修の実易 た必修の実易 はなめ	象・実習・実 習の授業時数) が提業時数) 単位数 象・実習・実 習の単位数 の単位数)	技の授業時数		単位 単位 単位 単位 年位 7 単位 16 単位 12 単位 1 単位 1 4 単位	立時間 立時間 立時間 回時間 回時間 回時間 回時間 回時間 回時間 回位 回時間 回位 回时间 回位 回位 回位 回位 位位 位位 位位 位位 位位 位位	
・ URL ・企業等と連携した実習等の実施状況 ・(A、Bいずれか	(A:単位	立時間による3 総授業時数 うううう (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の)	算定) ち企業等 ちち必修移 (うち企業 (うち企業 もちの専門 もちの専門 を は、この事門 を は、この事門 を は、この事門 を は、この事門 を は、この事門 は、この事門 は、この事門 は、この事門 は、この事門 は、この事門 は、このまのました。 と、このまのました。 と、このまのました。 と、このまのました。 と、このまのました。 と、このまのました。 と、このまのました。 と、このまのました。 と、このまのました。 と、このまのました。 と、このまのました。 と、このまのました。 と、このまのました。 と、このまのました。 と、このまのまで、 と、このまで、 と、 と、このまで、 と、このまで、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、	等と連携した実験・3 等と連携した演習の計 受業時数 うち企業等と連携し うち企業等と連携したイング 等と連携した演習の計 単位数 うち企業等と連携し うち企業等と連携し うち企業等と連携したイング 環程を修了した後、 等に従事した者であ	実習・実技の対 受業時数 た必修の実 にならの実 を に必修の で で 、た必修の で で 、た必修の で で 、た必修の で で 、なーンシップ の で に な で 、 に な で 、 に な で 、 に は な に な に な に な に な に な に な に な に な に	会・実習・実 習の授業時数) 単位数 ・実習・実 の単位数 の単位数)	技の授業時数		學任 學任 學任 學任 學任 62 學任 7 學任 16 學任 12 學任 4 學任 4 學任	立時間 立時間 立時間 立時間 立時間 立時間	
・ URL ・企業等と連携した実習等の実施状況 ・(A、Bいずれか	(A:単位	立時間による3 総授業時数 ううう な数による数 による数 ううう でで門課程	算定) ち企業等 もちか必修 を を を を を を を を を を を を を	等と連携した実験・3 等と連携した演習の射 受業時数 うち企業等と連携し うち企業等と連携したインク 等と連携した演習の 単位数 うち企業等と連携した うち企業等と連携したインク ま等と連携したインク ま等と連携したインク はな数 うち企業等と連携したインク ま等と連携したインク ま等と連携したインク まずとを変勢と変勢と変勢を変勢を変勢を変勢を変勢を変勢を変勢を変勢を変勢を変勢を変勢を変勢を変勢を変	実習・実技の対 受業時数 た必修の実 にならの実 を に必修の で で 、た必修の で で 、た必修の で で 、た必修の で で 、なーンシップ の で に な で 、 に な で 、 に な で 、 に は な に な に な に な に な に な に な に な に な に	会・実習・実 習の授業時数) 単位数 ・実習・実 の単位数 の単位数)	技の授業時数		単位 単位 単位 単位 年位 7 単位 16 単位 12 単位 1 単位 1 4 単位	立時間 立時間 立時間 立時間 立時間 立時間	
・ URL ・企業等と連携した実習等の実施状況 ・(A、Bいずれか	(A:単位	立時間による3 総授業時数 うううう (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の) (の)	算定) ち企業等 もちか必修 を を を を を を を を を を を を を	等と連携した実験・3 等と連携した演習の射 受業時数 うち企業等と連携し うち企業等と連携したインク 等と連携した演習の 単位数 うち企業等と連携した うち企業等と連携したインク ま等と連携したインク ま等と連携したインク はな数 うち企業等と連携したインク ま等と連携したインク ま等と連携したインク まずとを変勢と変勢と変勢を変勢を変勢を変勢を変勢を変勢を変勢を変勢を変勢を変勢を変勢を変勢を変勢を変	実習・実技の対 受業時数 た必修の実 にならの実 を に必修の で で 、た必修の で で 、た必修の で で 、た必修の で で 、なーンシップ の で に な で 、 に な で 、 に な で 、 に は な に な に な に な に な に な に な に な に な に	会・実習・実 習の授業時数) 単位数 ・実習・実 の単位数 の単位数)	技の授業時数		學任 學任 學任 學任 學任 62 學任 7 學任 16 學任 12 學任 4 學任 4 學任	立時間 立時間 立時間 立時間 立時間 立時間	
・ URL ・企業等と連携した実習等の実施状況 ・(A、Bいずれか	(A:単位	立時間による3 総授業時数 ううう な数による数 による数 ううう でで門課程	算定) ち企業等 あちな必修称 あるようちな必修称 あるようちな必 を実験を あるな必 を実験を あるなが のの	等と連携した実験・3 等と連携した演習の表 受業時数 うち企業等と連携し うち企業等と連携したイング 等と連携した大変 等と連携した演習の 単位数 うち企業等と連携し うち企業等と連携し うち企業等と連携したイング はな である企業等と連携したイング はな はな はな はな はな はな はな はな はな はな	実習・実技の対 受業時数 た必修の実 にならの実 を に必修の で で 、た必修の で で 、た必修の で で 、た必修の で で 、なーンシップ の で に な で 、 に な で 、 に な で 、 に は な に な に な に な に な に な に な に な に な に	条・実習・実 習の授業時数) の授業時数) 単位数 象・実習・実 電の単位数) (専修学社	技の授業時数	第1号)	學任 學任 學任 學任 學任 62 學任 7 學任 16 學任 12 學任 4 學任 4 學任	立時間 立 立時間 立 立時間 間 立 立時間 間 立 立 時間 間 立 立 時間 間 立 立 立 時間 間 立 立 立 位 立 立 立 立 立 立 立 立 立 立 立 立 立 立	
企業等と連携した実習の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A:単位	立時間による3 総授業時数 ううう 位数による第2 総単位数 うううう (1 てそ課程で年のよります。	算定) ち企業等 あち必修 が あった の	等と連携した実験・3 等と連携した演習の計 受業時数 うち企業等と連携し うち企業等と連携したイング 等と連携した演習の計 単位数 うち企業等と連携し うち企業等と連携し ま等と連携した演習の計 単位数 うち企業等と連携した ま等と連携したであいます。 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、	実習・実技の対 受業時数 た必修の実 にならの実 を に必修の で で 、た必修の で で 、た必修の で で 、た必修の で で 、なーンシップ の で に な で 、 に な で 、 に な で 、 に は な に な に な に な に な に な に な に な に な に	条・実習・実 習の授業時数) の授業時数) 単位数 単位数 の単位数) (専修学社 (専修学社	技の授業時数 注の単位数 技の単位数 交設置基準第41条第1項	第1号)	単位 単位 単位 単位 単位 16 単位 12 単位 1 単位 1 単位 1 4 単位	立時間 立 立 時間	
企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか に記入)	(A:単位	立時間による3 総授業時数 ううう (1) な数による第2 総単位数 うううう (1) 専を担参りより (2) 学士の等	算定) ちな企業等 もちな必修 からちなと まなできる。 ちちな必修 からちなと まなできる。 まなできる。 まなできる。 まなできる。 はないでもなできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないでもなでもなでもなでもなでもなでもなでもなでもなでもなでもなでもなでもなでもなで	等と連携した実験・3 等と連携した演習の計 受業時数 うち企業等と連携し うち企業等と連携したイング 等と連携した大演習の計 単位数 うち企業等と連携した演習の計 単位数 うち企業等と連携したイング ま等と連携した大演習の計 は数 うち企業等と連携したイング ま等と連携したその計 ま等と連携したその計 ま等と連携したその計 まずとまました。 まずとままない。 まずとままない。 はなまする。 はなまする。 はなまする。 はなまずとは、 はなまずとなる。 はなまななる。 はなまななる。 はなまなななる。 はなななる。 はなななる。 はななななる。 はなななななななななななななななななななななななななななななななななななな	実習・実技の対 受業時数 た必修の実 にならの実 を に必修の で で 、た必修の で で 、た必修の で で 、た必修の で で 、なーンシップ の で に な で 、 に な で 、 に な で 、 に は な に な に な に な に な に な に な に な に な に	条・実習・実 留の授業時数) の授業時数) 単位数 ・実習・実 留の単位数 の単位数 (専修学科 (専修学科	技の授業時数 技の単位数 交設置基準第41条第1項 交設置基準第41条第1項	第1号) 第2号) 第3号)	単位 単位 単位 単位 単位 16 単位 12 単位 12 単位 1 単位 1 4 単位 1 7 単位 1 7 単位 1 8 単位 1 8 単位 1 8 単位 1 7 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	立時間 立時間 立時間 立時間 立立時間 立立時間 立立時間 立立時間 立立時間 立立時間	
企業等と連携した実習の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A:単位	立時間による3 総授業時数 ううう (な数単位数 ううう) (で門して学生を担め年十二年の学校の年十二年の学校の年十二年の学校の学校の学校の学校の学校の学校の学校の学校の学校の学校の学校の学校の学校の	算定) ちな企業等 もちな必修 からちなと まなできる。 ちちな必修 からちなと まなできる。 まなできる。 まなできる。 まなできる。 はないでもなできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないでもなでもなでもなでもなでもなでもなでもなでもなでもなでもなでもなでもなでもなで	等と連携した実験・3 等と連携した演習の計 受業時数 うち企業等と連携し うち企業等と連携したイング 等と連携した大演習の計 単位数 うち企業等と連携した演習の計 単位数 うち企業等と連携したイング ま等と連携した大演習の計 は数 うち企業等と連携したイング ま等と連携したその計 ま等と連携したその計 ま等と連携したその計 まずとまました。 まずとままない。 まずとままない。 はなまする。 はなまする。 はなまする。 はなまずとは、 はなまずとなる。 はなまななる。 はなまななる。 はなまなななる。 はなななる。 はなななる。 はななななる。 はなななななななななななななななななななななななななななななななななななな	実習・実技の対 受業時数 た必修の実 にならの実 を に必修の で で 、た必修の で で 、た必修の で で 、た必修の で で 、なーンシップ の で に な で 、 に な で 、 に な で 、 に は な に な に な に な に な に な に な に な に な に	乗・実習・実 の授業時数) 単位数 単位数 の単位数) (専修学社 (専修学社 (専修学社	技の授業時数 技の単位数 交設置基準第41条第1項 交設置基準第41条第1項 交設置基準第41条第1項 交設置基準第41条第1項	第1号) 第2号) 第3号) 第4号)	単位 単位 単位 単位 単位 62 単位 7 単位 16 単位 12 単位 4 単位 4 単位 17 人 6 人 0 人 2 人	立時間 立時間 立時間 立時間 立時間 立時間 位 位 位 位 位 位 位 位 位 位 位 位 位	
企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか に記入)	(A:単位	立時間による3 総授業時数 ううう うう ううう うううう (な数単位数 うううう うううう (ででででででできます。 ででででできます。 ででででできます。 ででででできます。 ででででできます。 でででできます。 でででできます。 ででででできます。 でででできます。 でででできます。 でででできます。 でででできます。 でででできます。 でででできます。 ででででできます。 でででできます。 でででできます。 でででできます。 でででできます。 でででできます。 でででできます。 でででできます。 でででできます。 でででできます。 でででできます。 ででできます。 ででできます。 ででできます。 ででできます。 ででできます。 でででできます。 でででできます。 でででできます。 でででできます。 でででできます。 でででできます。 でででできます。 でででできます。 でででできます。 でででできます。 でででできます。 でででできます。 でででできます。 でででできます。 でででできます。 でででできます。 でででできます。 ででででできます。 でででできます。 でででできます。 でででできます。 でででできます。 でででできます。 ででででででできます。 ででででできます。 ででででできます。 ででででででででできます。 ででででできます。 でででででででででででででででででででででででででででででででででででで	算定) ちな企業等 もちな必修 からちなと まなできる。 ちちな必修 からちなと まなできる。 まなできる。 まなできる。 まなできる。 はないでもなできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないでもなでもなでもなでもなでもなでもなでもなでもなでもなでもなでもなでもなでもなで	等と連携した実験・3 等と連携した演習の計 受業時数 うち企業等と連携し うち企業等と連携したイング 等と連携した大演習の計 単位数 うち企業等と連携した演習の計 単位数 うち企業等と連携したイング ま等と連携した大演習の計 は数 うち企業等と連携したイング ま等と連携したその計 ま等と連携したその計 ま等と連携したその計 まずとまました。 まずとままない。 まずとままない。 はなまする。 はなまする。 はなまする。 はなまずとは、 はなまずとなる。 はなまななる。 はなまななる。 はなまなななる。 はなななる。 はなななる。 はななななる。 はなななななななななななななななななななななななななななななななななななな	実習・実技の対 受業時数 た必修の実 にならの実 を に必修の で で 、た必修の で で 、た必修の で で 、た必修の で で 、なーンシップ の で に な で 、 に な で 、 に な で 、 に は な に な に な に な に な に な に な に な に な に	乗・実習・実 の授業時数) 単位数 単位数 の単位数) (専修学社 (専修学社 (専修学社	技の授業時数 技の単位数 交設置基準第41条第1項 交設置基準第41条第1項	第1号) 第2号) 第3号) 第4号)	単位 単位 単位 単位 単位 62 単位 7 単位 16 単位 12 単位 4 単位 4 単位 4 単位 4 単位 4 単位 0 人 0 人	立時間 立時間 立時間 立時間 立時間 立時間 位 位 位 位 位 位 位 位 位 位 位 位 位	
企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか に記入)	(A:単位	立時間による3 総授業時数 ううう (な数単位数 ううう) (で門して学生を担め年十二年の学校の年十二年の学校の年十二年の学校の学校の学校の学校の学校の学校の学校の学校の学校の学校の学校の学校の学校の	算定) ちな企業等 もちな必修 からちなと まなできる。 ちちな必修 からちなと まなできる。 まなできる。 まなできる。 まなできる。 はないでもなできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないでもなでもなでもなでもなでもなでもなでもなでもなでもなでもなでもなでもなでもなで	等と連携した実験・3 等と連携した演習の計 受業時数 うち企業等と連携し うち企業等と連携したイング 等と連携した大演習の計 単位数 うち企業等と連携した演習の計 単位数 うち企業等と連携したイング ま等と連携した大演習の計 は数 うち企業等と連携したイング ま等と連携したその計 ま等と連携したその計 ま等と連携したその計 まずとまました。 まずとままない。 まずとままない。 はなまする。 はなまする。 はなまする。 はなまずとは、 はなまずとなる。 はなまななる。 はなまななる。 はなまなななる。 はなななる。 はなななる。 はななななる。 はなななななななななななななななななななななななななななななななななななな	実習・実技の対 受業時数 た必修の実 にならの実 を に必修の で で 、た必修の で で 、た必修の で で 、た必修の で で 、なーンシップ の で に な で 、 に な で 、 に な で 、 に は な に な に な な に な に な に な に な な な に な な な に な な な な に な な な な に な	乗・実習・実 の授業時数) 単位数 単位数 の単位数) (専修学社 (専修学社 (専修学社	技の授業時数 技の単位数 交設置基準第41条第1項 交設置基準第41条第1項 交設置基準第41条第1項 交設置基準第41条第1項	第1号) 第2号) 第3号) 第4号)	単位 単位 単位 単位 単位 62 単位 7 単位 16 単位 12 単位 4 単位 4 単位 17 人 6 人 0 人	立時間 立時間 立時間 立時間 立時間 立時間 位 位 位 位 位 位 位 位 位 位 位 位 位	
企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか に記入)	(A:単位	立時間による3 総授業時数 ううう うう ううう うううう (な数単位数 うううう うううう (ででででででできます。 ででででできます。 ででででできます。 ででででできます。 ででででできます。 でででできます。 でででできます。 ででででできます。 でででできます。 でででできます。 でででできます。 でででできます。 でででできます。 でででできます。 ででででできます。 でででできます。 でででできます。 でででできます。 でででできます。 でででできます。 でででできます。 でででできます。 でででできます。 でででできます。 でででできます。 ででできます。 ででできます。 ででできます。 ででできます。 ででできます。 でででできます。 でででできます。 でででできます。 でででできます。 でででできます。 でででできます。 でででできます。 でででできます。 でででできます。 でででできます。 でででできます。 でででできます。 でででできます。 でででできます。 でででできます。 でででできます。 でででできます。 ででででできます。 でででできます。 でででできます。 でででできます。 でででできます。 でででできます。 ででででででできます。 ででででできます。 ででででできます。 ででででででででできます。 ででででできます。 でででででででででででででででででででででででででででででででででででで	算定) ちな企業等 もちな必修 からちなと まなできる。 ちちな必修 からちなと まなできる。 まなできる。 まなできる。 まなできる。 はないでもなできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないできる。 はないでもなでもなでもなでもなでもなでもなでもなでもなでもなでもなでもなでもなでもなで	等と連携した実験・3 等と連携した演習の計 受業時数 うち企業等と連携し うち企業等と連携したイング 等と連携した大演習の計 単位数 うち企業等と連携した演習の計 単位数 うち企業等と連携したイング ま等と連携した大演習の計 は数 うち企業等と連携したイング ま等と連携したその計 ま等と連携したその計 ま等と連携したその計 まずとまました。 まずとままない。 まずとままない。 はなまする。 はなまする。 はなまする。 はなまずとは、 はなまずとなる。 はなまななる。 はなまななる。 はなまなななる。 はなななる。 はなななる。 はななななる。 はなななななななななななななななななななななななななななななななななななな	実習・実技の対 受業時数 た必修の実 にならの実 を に必修の で で 、た必修の で で 、た必修の で で 、た必修の で で 、なーンシップ の で に な で 、 に な で 、 に な で 、 に は な に な に な な に な に な に な に な な な に な な な に な な な な に な な な な に な	乗・実習・実 の授業時数) 単位数 単位数 の単位数) (専修学社 (専修学社 (専修学社	技の授業時数 技の単位数 交設置基準第41条第1項 交設置基準第41条第1項 交設置基準第41条第1項 交設置基準第41条第1項	第1号) 第2号) 第3号) 第4号)	単位 単位 単位 単位 単位 62 単位 7 単位 16 単位 12 単位 4 単位 4 単位 4 単位 4 単位 4 単位 0 人 0 人	立時間 立時間 立時間 立時間 立時間 立時間 位 位 位 位 位 位 位 位 位 位 位 位 位	
企業等と連携した 実習等の実施状況 (A、Bいずれか に記入)	(A:単位	立時間による3 総授業時数 ううう うう ううう うう ううう うう うう うう うう うう うう うう	算定) ちた企業等 はちため必称を たったのでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	等と連携した実験・3 等と連携した演習の計 受業時数 うち企業等と連携し うち企業等と連携したイング 等と連携した演習の計 単位数 うち企業等と連携したイング ま等と連携した大演習の計 単位数 うち企業等と連携したイング 課程を修了した後、お 当該業務に従事した: する者等 医験者 専門職学位	実習・実技の対 受業時数 た必修の実見 では必修の実施である。 では必修の実施である。 では必修の実施である。 では必修のである。 では、ためのである。 では、これでは、では、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは	乗って 乗って 乗った 乗った 乗った 乗った 乗った 乗った 乗った 乗った	技の授業時数 技の単位数 交設置基準第41条第1項 交設置基準第41条第1項 交設置基準第41条第1項 交設置基準第41条第1項	第1号) 第2号) 第3号) 第4号) 第5号)	単位 単位 単位 単位 単位 62 単位 7 単位 16 単位 12 単位 4 単位 4 単位 4 単位 4 単位 4 単位 0 人 0 人	立時間 立立時間 立立時間 百立時間 百立時間 百立時間 百立時間 百立時間 百	

- 1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係
- (1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業等との連携を通じて必要な情報の把握・分析を行い、実践的かつ専門的な職業教育を実施することを目的として、教育課 程編成委員会を設置する。委員会は次の各号に掲げる事項を審議し、授業科目の開設や授業方法の改善・工夫に生かす。

- (1)カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項
- (2) 各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項
- (3)教科書・教材の選定に関する事項
- (4)その他、教員としての資質・能力の育成に必要な研修に関する事項等

またより正確に業界における動向や求められる人材要件を把握するため、就職・実習先企業や業界団体、資格・検定団体等と 関係性を深め、幅広く連携を図ることで、業界の求めるニーズを確実に捉え、本校のカリキュラムや授業内容に反映する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会での審議を通じて示された企業等の要請その他の情報・意思を十分に生かし、実践的かつ専門的な職業 教育を実施するに相応しい教育課程の編成を協力して行うものとして位置づけている。

具体的には、審議を通じて示された教育課程編成に係る意見を基に、副校長および各校教務チームによって教育課程および シラバスの改善素案が作成され、フィットネス分野専門委員会(別紙組織図:各専門委員会)にて提案される。

提案に基づき、フィットネス分野専門委員会にて審議の上、次年度の教育課程およびシラバスに改善内容が反映される。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年7月31日現在

		131H7 1 773	
名 前	所 属	任期	種別
石塚 利光	一般財団法人日本コアコンディショニング協会	令和5年4月1日 ~令和7年3月31日(2年)	1
小林 祐介	株式会社ルネサンス	令和5年4月1日 ~令和7年3月31日(2年)	3
斎藤 政臣	札幌スポーツ&メディカル専門学校 副校長	令和6年4月1日 ~令和7年3月31日(1年)	_
千葉 千夏	札幌スポーツ&メディカル専門学校 教務主任	令和6年4月1日 ~令和7年3月31日(1年)	_
三井 華那子	札幌スポーツ&メディカル専門学校 教務主任	令和6年4月1日 ~令和7年3月31日(1年)	_

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①~③のいずれに該当するか記載すること。 (当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「一」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、
 - 地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員
- (4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (11月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年11月20日17:00~18:00

第2回 令和7年3月19日16:30~17:30

- (5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
- ※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。
- 委員会にていただいた以下の意見について対応を行っている。
- 受け身の学生が増えており、就職後にリーダーシップを発揮できる人材を育成する必要がある。
- ⇒実践的な授業や行事で役割を与えて、失敗を想定しての配置・フィードバックを実施していく。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実践的な指導を施すにあたり、フィットネス業界における実績や、実践的かつ専門的な知識・技術およびその指導能力を有する 指導者が得られる企業等を選定し、実践計画の作成から連携を図る。フィットネス業界の求める人材要件に沿った計画、およ び評価基準・方法を設定し、企業等からのフィードバックに基づいた成績評価を行うことを基本方針とする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

ピラティス実践では、株式会社CODE7(PHIピラティス)といった協会と教育提携を結び、実務能力から資格認定に繋がるまでの シラバスを作成し、協会から認定・派遣された講師によって授業を展開している。成績評価に関しては実務・応用力等が成績評価の基準となる。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
ピラティス理論と実践 I	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	ピラティスという運動療法を通して、実際の 現場で即戦力として活躍できる人材となる ための実践的な指導力を身に付ける。	株式会社CODE7
インストラクター理論と 実践 I	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	トレーニングの基本や様々な種目を実践形式で学び、自らトレーニングすることの楽しさと重要性を感じる。	NESTA JAPAN
グループエクササイズ 指導実践 I	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	安全でかつ効果的なグループエクササイ ズの指導法を学び、実践していく。	合同会社Body Renovation
インターンシップ実習 I	3. 【校外】企業内実 習(4に該当するもの を除く。)	授業で学んだ知識や技術をアウトプットし、 実践力を養うとともに、現場・社会に触れる ことで、求められる人物像やスキル、社会 を学ぶ。	株式会社ルネサンス等
インターンシップ実習 Ⅱ	3. 【校外】企業内実習(4に該当するものを除く。)	授業で学んだ知識や技術をアウトプットし、 実践力を養うとともに、現場・社会に触れる ことで、求められる人物像やスキル、社会 を学ぶ。	株式会社ルネサンス等

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

実践的かつ専門的な職業教育を実施し、明日のフィットネス業界を担う人材を養成するためには、教員一人ひとりが常に業界ならびに実務に関する最新の知識を持ち、指導スキルを身につけようという向上心がなければならない。そのために、「研修等に係る諸規程」に基づき、計画的に以下の研修を実施している。

・企業等から講師を招いた実践的かつ専門的な知識・技術・技能を修得するための研修

・企業等から講師を招いた指導力の修得・向上のための研修

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 実践を通した業界理解 連携企業等:株式会社JCCA

期間: 令和6年8月23日(金) 対象: 教員21名

内容 業界変化・競合校動向を踏まえて、在学期間で育成する人材レベルの共通認識について

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: つながり高め合うこれからの学び 連携企業等: 北海道私立学校各種学校 教育能力認定委員会

期間: 令和6年12月19日(木) 対象: 教員25名

内容 今後求められる多様性と指導力、また地域との繋がりと学ぶ環境について考える

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: これからの未来社会を支えるスポーツ指導者とは 連携企業等: 特定非営利活動法人

期間: 令和7年9月14日(日) 対象: 教員5名

内容 急速に変化する社会の中で、これからのスポーツ指導者に求められる視点

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 変化する高校生の理解と専門学校教育の展開 連携企業等: ^{北海道私立学校各種学校}

期間: 令和7年8月1日(金) 対象: 教員25名

内容 社会人基礎力の育成を目指して

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校関係者として、関連分野の業界関係者及び卒業生、地域に根差した関連企業と共に、学校関係者評価委員会を設置して、教育目標や教育について評価し、その評価結果を次年度の教育活動および学校運営の改善の参考とする。

学校関係者評価は、「専修学校における学校評価のガイドライン」の評価項目を使用して実施した自己点検・自己評価の結果を基に「実施することを基本方針とする。また評価結果は学校のホームページで公表し、委員会で得られた意見についてはすみやかに集約し、各業務担当者にフィードバックすることで、学校運営の改善に生かすものとする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)教育理念•目標
(2)学校運営	(2)学校運営
(3)教育活動	(3)教育活動
(4)学修成果	(4)学修成果
(5)学生支援	(5)学生支援
(6)教育環境	(6)教育環境
(7)学生の受入れ募集	(7)学生の受入れ募集
(8)財務	(8)財務
(9)法令等の遵守	(9)法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	(10)社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	

^{※(10)}及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

委員会にていただいた以下の意見について対応を行っている。

資格取得の学習が必ずしも即戦力となる学習とイコールではない部分も多い。資格をしっかりと取得させる教育体制と即戦力を備えた人物育成のさらなる両立が必要である。 ➡ 業界のニーズに合わせた教育課程・授業計画の見直しが出来るように、各エリア担当の情報収集力の強化とそのための仕組みの構築、現職で勤務をしている非常勤講師の声を教育に反映させることができる環境を作っていく。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和7年7月31日現在

_			12 15 1 17 1	
	名 前	所 属	任期	種別
八田則	川之		令和7年4月1日~令和8年3月31 日(1年)	関連業界関 係者
川原 祥	羊吾	株式会社共立メンテナンス	令和7年4月1日~令和8年3月31 日(1年)	関連業界関 係者
竹内 湧	晃也	パーソナルジム&鍼灸院Taft-G	令和7年4月1日~令和8年3月31 日(1年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

<u>(ホームページ・)</u>広報誌等の刊行物 · その他())

URL: https://www.sanko.ac.jp/disclosure/sapporo-sports/docs/kankeisya.pdf

公表時期: 令和7年7月31日

- 5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係
- (1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
- 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に則って情報提供を行うことを基本方針とし、以下の姿を目指す。
- す。 1. 学校の指導方針や課題への対応方法等に関し、教職員・生徒間、学校・家庭間の共通理解が深まり、教育活動の活性化や 学校運営の円滑化につなげること。
- 2. 入学希望者やその保護者に対し、進路選択に当たっての有用な情報を提供するとともに、一人ひとりの能力・適性にあった望ましい進路の実現に資すること。
- 3. キャリア教育・職業教育をはじめとした教育活動の状況等について、業界関係者に情報提供することで、相互の対話が促され、実習・就職指導等企業等との連携による活動の充実や、業界等のニーズを踏まえた教育内容・方法の改善につなげること。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

	- 因うのカーフーン」の項目との対応
ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の概要、目標および計画
(2)各学科等の教育	学科概要、カリキュラム、シラバス、客観的な指標の算出方法、卒業要件、 目指すべき人材像、取得可能資格、就職実績
(3)教職員	教員数、組織、専門性
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取り組み、実習実技への取り組み
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事
(6)学生の生活支援	生活上の諸問題への対応
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金、就学支援
(8)学校の財務	学校の財務
(9)学校評価	自己評価·学校関係者評価結果
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・) 広報誌等の刊行物・ その他(

))

URL: https://www.sanko.ac.jp/disclosure/sapporo-sports/

公表時期: 令和7年5月30日

授業科目等の概要

				と専門課程 ス	ポーツ&アクティビティ科)		1							Ler		
	<u> </u>	分類	Į						抒	後業に	万法	場	肵	教	貞	
	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	講義		実験・実習・実技	校内	校 外		兼任	企業等との連携
1				インストラクター 理論と実践 I	トレーニングの基本や様々な種目を実践形式で学び、自らトレーニングすることの楽しさと重要性を感じる。	1 年 前 期	45	3		0		0			0	0
2					現場で活躍するインストラクターになるためには人体の 仕組みを学ぶことが必要であることを理解させる。 トレーニングと紐づけながら、基本的な体の仕組みを理 解する。	平	45	3		0		0			0	0
3				インストラクター 理論と実践Ⅲ	クライアントの評価とプログラミング、個人とグループの指導ができるようになる。 エクササイズボール種目を実践し、指導できるようになる。	平	45	3		0		0			0	0
4			0	インストラクター 理論と実践 Ⅳ	現場で安全に指導し、活用できる知識を身につける。 個人に合わせたプログラミングの作成や評価ができるよ うになる。	1年・後期	45	3		0		0			0	0
5	0			スタジオエクササ イズ I	グループエクササイズ指導の基礎知識を身につける。	1年•前期	30	1			0	0			0	
6	0			スタジオエクササ イズⅡ	ウォーキングエクササイズとエアロビックダンスエクサ サイズのグループエクササイズ指導ができるようにな る。	1年・後期	30	1			0	0			0	
7			0	トレンドエクササ イズ I	運動指導の現場で実際に行われているプログラムを体験 し、その効果や魅力を理解する。	1年•前期	30	2		0		0			0	
8				トレンドエクササ イズⅡ	運動指導の現場で実際に行われているプログラムの指導 を体験し、インストラクターという仕事の魅力を知る。	1年・後期	30	2		0		0			0	
9				スポーツストレッ チ実践 I	各ストレッチングに関する正しい知識と技能を習得し、 スタティックストレッチングをリードアップする技能を 習得する。ストレッチングを通して身体に触れることで 身体に対しての理解を深める。		30	1			0	0			0	
10			0		スポーツトレーナーにとって、ストレッチングに関する 正しい知識と技能は必要不可欠なものである。 スポーツトレーナーに必要なストレッチングに関する正 しい知識と技能を学習する。	T	30	1			0	0			0	
11			0	スポーツ栄養学 I A	運動指導に必要な栄養学の基礎を学び、食生活の改善が できるよう理解する。	1年•前期	30	2	0			0			0	
12			0	スポーツ栄養学 I B	運動指導に必要な栄養学の基礎を学び、食生活の改善が できるよう理解する。	1年・後期	30	2	0			0			0	

				養専門課程 ス	ポーツ&アクティビティ科)											
		分類	į						挖	業	方法	場	所	教	員	
	必修	選択必修	由選	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	業時	単位数	講	演習	実験・実習・実技	校内	校 外		兼任	企業等との連携
13	0				運動指導を行う上で欠かせない、内科的および外科的障害に関する知識とその救急処置の方法を学習する。	1 年 前期	30	2		0	12	0			0	
14	0			運動障害の予防と 救急処置 I B	運動指導を行う上で欠かせない、内科的および外科的障害に関する知識とその救急処置の方法を学習する。	1年・後期	30	2		0		0			0	
15			0	運動指導の心理学	健康行動に影響を与えるさまざまな要因や身体活動・運動実践が心身の健康に与える影響について、また個別指導における動機づけとカウンセリングの方法を理解する。	# T	30	2	0			0			0	
16			0	未来デザインプロ グラム I	7つの習慣を体系的に学ぶことを通じ、三幸学園の教育理念である「技能と心の調和」のうち「心」の部分を身につける。		15	1	0			0		0		
17			0	未来デザインプロ グラム II	7つの習慣を体系的に学ぶことを通じ、三幸学園の教育理念である「技能と心の調和」のうち「心」の部分を身につける。		15	1	0			0		0		
18			0	キャリア教育Ⅰ	自己成長と社会適応力を高め、充実した大人として生き る準備をする。	1年・前期	15	1	0			0		0		
19			0	キャリア教育Ⅱ	業界で成功するための必要なスキルやマインドを身につける。	1年・後期	15	1	0			0		0		
20			0	が中吐する	健康教育に関わる者として、コアコンディショニングの 概念および手法を用いたコンディショニング指導方法を 習得する。	1年・前期	30	2		0		0			0	
21			0	総合演習I	スポーツ業界が専門学校に求める『専門性』『コミュニケーション』『ビジネスカ』『イノベーション(創造する)カ』を個々が総合的に身につける。		30	2		0		0		0		
22			0	総合演習Ⅱ	スポーツ業界が専門学校に求める『専門性』『コミュニケーションカ』『ビジネスカ』『イノベーション(創造する)カ』を個々が総合的に身につける。		30	2		0		0		0		
23			0	ビジネスマナー	社会人になるうえで、就職活動や卒業後のキャリアに向けて相応しい立ち居振る舞いや言葉づかい、お客様対応など、好印象を与えることができるようにする。また就職活動に向けた対策内容も学んでいく。	; 	15	1	0			0		0		
24			0	コースセレクト概 論	1年次後期コース選択するにあたり、各コースの講義と実 技を実施する。	1年•前期	15	1		0		0			0	

	()	文化	教養	を専門課程 ス	ポーツ&アクティビティ科)											
		分類	į					授	業	方法	場	所	教	員		
	必修	選択必修	由	授業科目名	授業科目概要	配当年次·学期	業時	単	講義		実験・実習・実技	校内	校 外		兼任	企業等との連携
25			0	サービスラーニン グ演習	イベント運営の一員として参加者へ喜んでもらうこと・楽しんでもらうことを体感し「ささえるスポーツ」の楽しさを知り、社会的活動を通して社会人として必要な資質・能力を高めることができる。		15	1		0		0		0		
26			0	インターンシップ 実習 I	授業で学んだ知識や技術をアウトプットし、実践力を養うとともに、現場・社会に触れることで、求められる人物像やスキル、社会を学ぶ。	1年・通年	45	1			0		0	0		0
27	0			トレーニング実践 と指導応用 I	パワー向上トレーニングにおける適切なデモンストレーション技能を習得する。 レジスタンストレーニング、パワー向上トレーニングの 指導スキルを習得する。	-	30	1			0	0			0	
28	0			トレーニング実践 と指導応用 II	パワー向上トレーニングにおける適切なデモンストレーション技能を習得する。 パワー向上トレーニングの指導スキルを習得する。	2年・後期	30	1			0	0			0	
29			0	トレンドエクササ イズⅢ	運動指導の現場で実際に行われているプログラムを体験 し、その効果や魅力を理解する。	2 年 • 前期	30	2		0		0			0	
30			0	トレンドエクササ イズⅣ	運動指導の現場で実際に行われているプログラムの指導 を体験し、インストラクターという仕事の魅力を知る。	2年・後期	30	2		0		0			0	
31					スポーツビジネス業界で求められるモチベーションマネ ジメントを習得する。	2 年 前期	15	1	0			0		0		
32			0	スポーツマネジメント	スポーツビジネス業界で求められるマネジメントを習得 する。	2年•前期	30	2	0			0			0	
33	0			ピラティス理論と 実践 I	ピラティスという運動療法を通して、実際の現場で即戦力として活躍できる人材となるための基礎知識の習得を目指す。		30	2		0		0			0	0
34	0			ピラティス理論と 実践 Ⅱ	ピラティスという運動療法を通して、実際の現場で即戦 カとして活躍できる人材となるための実践的な指導力を 身につける。		30	2		0		0			0	0
35			0	キャリア教育Ⅲ	本格化する就職活動に向けて、自ら積極的に動き、採用 試験に臨ませる。	2 年 · 前期	15	1	0			0		0		
36			0	キャリア教育Ⅳ	本格化する就職活動に向けて、自ら積極的に動き、採用 試験に臨ませる。	2 年 · 後期	15	1	0			0		0		

	()	文化	教養	襲専門課程 ス	ポーツ&アクティビティ科)											\neg
		分類	į						挖	受業 ス	方法	場	所	教	員	
	必修	選択必修	由	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	業時	単位数	講義		実験・実習・実技	校内			兼任	企業等との連携
37			0	総合演習Ⅲ	運動指導施設では指導以外の業務でも活躍が求められる 為、自ら運動施設を運営する実習を通して実際のスポー ツ現場で行われている企画・準備・運営方法を習得す る。また、集客方法を学び初期のステップとして学内案 内を行う。	年	30	2		0		0		0		
38			0	総合演習IV	運動指導施設では指導以外の業務でも活躍が求められる為、自ら運動施設を運営する実習を通して実際のスポーツ現場で行われている企画・準備・運営方法を習得する。また、ICTリテラシーを高め、ICTを活用した配信方法を習得する。	年	30	2		0		0		0		
39			0	運動指導特論	健康運動実践指導者取得にあたり必須となる筆記試験の内容を学び、専門的知識を高める。	2 年 · 前期	60	4	0			0			0	
40			0	健康づくり運動の 実際	国の施策を理解したうえで、運動プログラムの作成に必要な知識を身につける。	2 年 前期	30	2	0			0		0		
41			0	運動指導実践	健康運動実践指導者取得にあたり必須となる実技試験の内容を学び、専門的知識と指導技術を高める。	2 年 前期	30	1			0	0			0	
42			0	トレーニング特論	JATI-ATI合格に向けた試験対策を重点化し、出題頻度の高い分野の学習と模擬問題を解き基礎学力を高める。	2 年 前期	30	2	0			0			0	
43			0	インターンシップ 実習 Ⅱ	授業で学んだ知識や技術をアウトプットし、実践力を養うとともに、現場・社会に触れることで、求められる人物像やスキル、社会を学ぶ。	2年・通年	90	3			0		0	0		0
44			0	グループエクササ イズ実践 I	グループエクササイズの基礎知識を身につける。	1年・後期	30	1			0	0			0	
45			0		様々なレッスンのプログラミングやリードについて理解 する。	1年・後期	30	1			0	0			0	0
46			0	チャイルドスポー ツ実践	こども達の見本となる運動実技(マット運動、跳び箱、 鉄棒等)を体験し、技術を身に着ける。	1年・後期	30	1			0	0			0	
47			0	チャイルドスポー ツ指導実践 I	幼児期に運動能力のベースをつくり、子どもの特性に合わせた指導プログラムの立案・指導方法、実技を身につける。	1年・後期	30	1			0	0			0	
48			0	イベントプランニ ング I	スポーツイベントの社会における役割理解とスポーツビジネスに活用できる人材としてイベントの企画・立案・ 実施の基本を理解する。	1年・後期	30	2	0			0			0	

	()	文化	教養	専門課程 ス	ポーツ&アクティビティ科)											
		分類	Į						抒	業	方法	場	所	教	員	
	必修	選択必修	由選	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	業時	単位数	講	演習	実験・実習・実技	校内	校 外		兼任	企業等との連携
49			0		マーケティングの基本的な考え方や流通・小売業で必要な基本知識・技能を理解する。	1年・後期	30	2	0		12	0			0	
50			0	ダンスゼミ	ダンスを仕事にする上での基礎知識を、実技/座学を交えて身につける。 授業の後半は、振付をメインとしたダンスレッスンを行い、振付を通してダンスの楽しさを学ぶ。	-	30	1			0	0			0	
51			0	ダンス実践 I	リズムやステップの習得を通して表現力を磨く。音楽に対する感覚を養い、自身の動きに自信を持てるようにすることを目指す。		45	1			0	0			0	
52			0	ダンス指導実践 I	ダンス指導の基礎知識を身につける。ダンス指導者としての振付制作の実践。	1年・後期	45	1			0	0			0	
53			0	トレンドダンス I	様々なダンスジャンルについて知る。実際に学び、ダンスの応用力をつける。	1年・後期	30	1			0	0			0	
54			0	グループエクササ イズ実践 II	グループエクササイズ指導を理解し、実践をすることができる。	2 年 前期	45	1			0	0			0	
55			0	グループエクササ イズ実践Ⅲ	グループエクササイズ指導を理解し、実践をすることができる。	2年・後期	45	1			0	0			0	
56			0	グループエクササ イズ指導実践 II	グループエクササイズ指導を楽しく行うための知識や技術の習得と合わせてプログラミングと指導実践を身につける。	2 年 前期	45	1			0	0			0	0
57			0	グループエクササ イズ指導実践Ⅲ	グループエクササイズ指導を楽しく行うための知識や技術の習得と合わせてプログラミングと指導実践を身につける。	2年・後期	45	1			0	0			0	0
58			0	水中運動実践	水中エクササイズを理解する。 水中エクササイズの理論と指導法を理解する。	2 年•前期	30	1			0	0			0	
59			0	グループエクササ イズ理論 I	グループエクササイズ指導の基礎知識を理解する。	2 年•前期	30	2	0			0			0	
60			0	グループエクササ イズ理論 Ⅱ	グループエクササイズ指導の基礎知識を理解する。	2 年 · 後期	15	1	0			0			0	

	()	文化	教養	を専門課程 ス	ポーツ&アクティビティ科)											\Box
		分類	Į						挖	業	方法	場	所	教	員	
	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	業時	単位数	講義		実験・実習・実技	校内			兼任	企業等との連携
61			0	チャイルドスポー ツ指導実践 II	幼児期に運動能力のベースをつくり、子どもの特性に合わせた指導プログラムの立案・指導方法、実技を身につける。		30	1			0	0			0	
62			0	チャイルドスポー ツ指導実践Ⅲ	幼児期に運動能力のベースをつくり、子どもの特性に合わせた指導プログラムの立案・指導方法、実技を身につける。		30	1			0	0			0	
63			0	キッズダンス実践 I	こどもの身体的特徴と運動器の機能向上を理解する。 正しいダンス指導方法を学習する。	2 年 · 前期	45	1			0	0			0	
64			0	キッズダンス実践 Ⅱ	こどもの身体的特徴と運動器の機能向上を理解する。 正しいダンス指導方法を学習する。	2 年 ・ 後期	45	1			0	0			0	
65			0	キッズレクリエー ション指導実践 I	こどもの身体的特徴と運動器の機能向上を理解する。 正しいレクリエーション実施方法を学ぶ。	2 年 · 前期	45	1			0	0			0	
66			0	キッズレクリエー ション指導実践 II	こどもの身体的特徴と運動器の機能向上を理解する。 正しいレクリエーション実施方法を学ぶ。	2年・後期	45	1			0	0			0	
67			0	発育発達論	幼児及び児童の発達における基礎理論を理解する 運動神経の発達とゴールデンエイジの関係性を理解する。 年代別にあった運動を理解し即戦力となるスキルを習得 する。	•	15	1	0			0			0	
68)	ングⅡ	スポーツイベントの社会における役割理解とスポーツビジネスに活用できる人材としてイベントの企画・立案・ 実施の基本を理解する。	前期	30	2	0			0			0	
69			0	リテールマーケ ティングⅡ	スポーツイベントの社会における役割理解とスポーツビジネスに活用できる人材としてイベントの企画・立案・ 実施の基本を理解する。	2年・前期	30	2	0			0			0	
70			0	スポーツプロモー ション I	スポーツの普及・促進・発展させていくことを意味する スポーツプロモーションについて、生涯スポーツという 観点から日本の各種スポーツ政策・施策を実例を通して 学習する。	1 7	30	2	0			0			0	
71			0	スポーツプロモー ションⅡ	スポーツの普及・促進・発展させていくことを意味するスポーツプロモーションについて、生涯スポーツという観点から日本の各種スポーツ政策・施策を実例を通して 学習する。	T T	30	2	0			0			0	
72			0	商品開発論 I	商品開発における基礎知識を学ぶ。	2 年 前期	30	2	0			0			0	

(文化教養専門課程 スポーツ&アクティビティ科)																
		分類							抒	業業	方法	場所		教員		
	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	業時	単位数	講		実験・実習・実技	校内		専任	兼任	企業等との連携
73			0	商品開発論Ⅱ	商品開発における基礎知識を学ぶ。	2年・後期	30	2	0			0			0	
74			0	アプリケーション 演習 I	アプリケーションに関する基礎知識と技能を学ぶ。	2 年 • 前期	30	2		0		0			0	
75			0	アプリケーション 演習 Ⅱ	アプリケーションに関する基礎知識と技能を学ぶ。	2 年 · 後期	30	2		0		0			0	
76			0	モチベーション・ インストラクター	スポーツビジネス業界で求められるモチベーションマネ ジメントを習得する。	2 年 · 前期	30	2	0			0		0		
77			0	ダンス実践 Ⅱ	リズムやステップの習得を通して表現力を磨く。 音楽に対する感覚を養い、自身の動きに自信を持てるようにすることを目指す。	2 年 • 前期	45	1			0	0			0	
78			0	ダンス実践Ⅲ	これまでのリズムやステップ総復習を行いながら、実 技・実践を行う。	2年・後期	45	1			0	0			0	
79			0	ダンス指導実践 Ⅱ	ダンス指導の応用力を身につける。ダンス指導者として の振付制作スキルを身につけるために、 ダンス作品を理論的に考え、作品の理解を深め実際に自 らが考える力をつける。	平	45	1			0	0			0	
80			0	ダンス指導実践Ⅲ	ダンス指導において身につけた総合的な技術を実践す る。	2 年 · 後期	45	1			0	0			0	
81			0	トレンドダンスⅡ	様々なダンスジャンルについて知る。実際に学び、ダンスの応用力をつける。	2 年 • 前期	45	3		0		0			0	
82					様々なダンスジャンルについて知る。実際に学び、ダンスの応用力をつける。	2年・後期	45	3		0		0			0	
			合詞		82	科	目				130	単位	(26	85単	位時	間)

			専門課程 ス	ポーツ&アクティビティ科)											
	分類	Į						挖	業	方法	場	所	教	員	
必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	講	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	企業等との連携

	卒業要件及び履修方法	授業期間等				
卒業要件	本校に修業年限以上在学し、所定の単位を修得し校長に卒業を認められた者に、卒業の認定を行う。	1 学年の学期区分	2 期			
履修方法	原則として教育課程に定められている順序で履修する。 :: インストラクター理論と実践Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、グループエクササイズ 指導実践Ⅰ・Ⅱ・Ⅲについては必履修科目とする。	1 学期の授業期間	15 週			

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について〇を付すこと。